

獨協大学長殿

# 学外研修報告書

私は、学外研修員として出張しておりましたが、このたび研修を終えて帰任いたしました。つきましては、次のとおりご報告申し上げます。

|                                                                                                                                                                                   |                                 |      |               |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|------|---------------|
| 報告日                                                                                                                                                                               | 2026 年 4 月 30 日                 | 所 属  | 国際教養学部        |
| 職 名                                                                                                                                                                               | 准教授                             | 氏 名  | 小宮秀陵          |
| 研修種別                                                                                                                                                                              | ①. 海 外 2. 国 内                   | 研修種類 | ①. 長 期 2. 短 期 |
| 研修期間                                                                                                                                                                              | 2025 年 3 月 1 日 ～ 2026 年 3 月 1 日 |      |               |
| 学外における主な研修機関および訪問先<br>ソウル大学                                                                                                                                                       |                                 |      |               |
| 出張目的または研究題目<br>韓国古代史研究における空間への関心の高まりについての調査                                                                                                                                       |                                 |      |               |
| 資 格 ①. 2024 年度獨協大学学外研修員（派遣）<br>2. 本学承認の学外研修員（自費等）<br>3. その他（ ）                                                                                                                    |                                 |      |               |
| 大学から支給された費用（要清算書類）・補助金額 300 万円                                                                                                                                                    |                                 |      |               |
| 研修内容（1. 研修経過の詳細 2. 研究成果発表の予定 3. その他 を記入）                                                                                                                                          |                                 |      |               |
| 1. 研修経過について                                                                                                                                                                       |                                 |      |               |
| 2025 年 3 月 1 日から 2026 年 3 月 1 日まで、獨協大学の長期学外研修員として渡韓し、ソウル大学に客員研究員として滞在した。ソウル大学では、3 月は入退去の関係で、寄宿舎への入居に 1 か月ほど時間がかかったが、4 月から入居することができた。また、3 月から、ソウル大学学内で開催される日本書紀研究会、韓国古代学コロキウムなどに参加 |                                 |      |               |

提出先：所属学部長→学長→人事課

裏面につづく

する機会を得た。

本研修では、韓国古代史研究における広域研究への関心が増えた背景とその意義について考えることを最大の目標としていた。そのためソウル大学の図書館で、広域を扱った近年の韓国古代史研究関連の資料の調査を進めた。とりわけ、海域世界や東ユーラシア世界で韓国の古代史を位置づけなおし、あわせて多文化を再考する論著が印象的であった。また近年の日本の広域史研究関連 図書なども多く所蔵されており、広域に対する強い関心を実際に感じることでできた。

4月からは、韓国古代史学会・韓国木簡学会などの学会活動に加え、学外で古代の外交文書を読む研究会などにも随時参加した。このうち韓国古代史学会の夏季セミナーでは、東北アジアの国際情勢の中で移民・移住に関するテーマを扱っており、通時的に各国の移住民の動態を分析する発表を拝聴した。そこでは、移動した人々のアイデンティティとその評価を改めて考えさせられた。この点は、本研修のテーマと密接に関係しており、非常に有益であった。また、木簡学会は近年の出土資料を検討する際の視角や韓国の問題関心などを理解するうえでも有用であった。さらに、外交文書を読む会は、古代の東アジア国際関係をめぐる問題関心と、それに対する史料적接近を再考する貴重な機会となった。ほかに韓国の生態環境史に関する活動にも触れる機会を得て、地球規模の視野のもとで、古代日朝交流や中朝交流をいかに描くかという問題意識を涵養することができた。特に、古代の信仰の見え方に関する議論を通じて、それを読み解こうとすることの現代世界的意義を再検討する重要性を再確認した。

後半期は何度かコメンテーターや通訳も務める機会も持ちつつ、多くの学会に参加した。その中で広域について考える機会を多く得た。とりわけ史学史、具体的には近現代東洋史研究とアカデミズムに関する議論に触れる機会を得たことは、当時の研究者の広域空間の認識を再考するうえで大変意義深いものであり、現在の韓国古代史の位置づけとの距離や関連性を再考するうえでも有益な場であった。

また期間中には現地調査も随時行った。特に鉄原郡一帯、漣川郡一帯の古代遺跡関連の調査では、遺跡が非武装地帯に存在しており、現代の南北分断と密接にかかわっていることを実感した貴重な体験であった。また、釜山地域の調査は、近現代の歴史的遺物が現代世界にどのように位置づけられているかを考える機会となり、亀尾市・星州・陝川郡

の調査は、高麗時代と現代との関連を改めて考える得難い経験となった。これらの調査では、遺物の見せ方や保存の在り方なども考えさせられ、現代世界の中での遺産の在り方を再考するきっかけにもなった

その他多くの研究者とも交流を重ね、韓国の古代史研究だけでなく、東洋史研究者も広域に関心をもって研究を進めていることを確認でき、相互に意見を交える場ともなった。

また、韓国内で、韓国国外から来た多くの研究者とも意見を交換する場を得て、各国の研究者の問題関心に大いに触発される貴重な時間となった。とりわけ、各国がそれぞれの文脈で韓国学へ関心を寄せていることやその背景などに対する知見を深化させることができた。

## 2. 研究成果発表の予定

韓国や日本の学術誌に発表・投稿する予定で準備を進めている。

## 3. その他

今回の本研修に関して、本学には長期にわたる貴重な研修の機会を賜り、集中して研究することで研究・教育活動のさらなる充実に資する環境を与えてくださったことに心より御礼申し上げます。また、本研修の実施にあたり、ソウル大学歴史学部の諸先生方には、現地での活動等に際し、種々の便宜をお図りいただきましたことも感謝申し上げます。